

病防第 1 1 1 号  
平成 1 9 年 1 1 月 1 2 日

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

メロンおよびキュウリの黄化症発生原因（技術情報第 1 1 号）について（送付）

このことについて、下記のとおりとりまとめましたので、参考資料としてご活用下さい。

- 1 病害虫名           ウリ類黄化症
- 2 発生作物           メロン，キュウリ
- 3 病原ウイルス    クロステロウイルス（Closterovirus）の一種

#### 4 発生確認の経過

平成 16 年秋冬作メロンおよびキュウリで葉が黄化する症状が熊本市太郎迫および鹿本郡植木町で確認された。本症状はタバココナジラミバイオタイプ Q の接種で再現されるため，国内，海外の既知のコナジラミ媒介性ウイルスを対象にウイルス検定を実施したが，検出されなかった。このため，タバココナジラミバイオタイプ Q による異常症とされた。

平成 18 年度に開始された先端技術を活用した農林水産研究高度化事業「果菜類における新規コナジラミ（バイオタイプ Q）等防除技術の開発」（中核機関：野菜茶業研究所）において熊本県，佐賀県，大分県および宮崎県で試験を実施するなかで，ウイルスの関与が疑われたため，新たに開発された手法を使用し，平成 19 年に九州沖縄農業研究センターでウイルス検出を試みた結果，クロステロウイルスと推定されるウイルスが発見された。

熊本県の現地ほ場から黄化症が発症したメロンを採集，検定した結果，同種のウイルスが確認された。

#### 5 感染植物

感染が確認されている植物はメロン，キュウリ，スイカである。

## 6 主な感染植物での症状および被害

はじめ、葉に退緑小斑点が生じ、斑点が増加・癒合しながら黄化、拡大して斑状の黄化葉となる。症状が進展すると斑点状の緑色部分を残して葉の全面が黄化する。キュウリの場合は葉縁が下側に巻く症状が認められる。

メロンでは果実糖度および果実重量の低下が確認されている。キュウリについては黄化による草勢低下が認められる。

類似した症状を示すものに、メロン黄化葉症、オンシツコナジラミが媒介するキュウリ黄化病（病原ウイルス BPYV）がある。

## 7 伝染方法

現在、ウイルスをタバココナジラミバイオタイプ Q が媒介することを確認した。媒介するコナジラミの種類、タバココナジラミのバイオタイプ、媒介に関係するウイルスの特性については試験中である。ただし、クロステロウイルスは半永続媒介で経卵伝染、汁液伝染、土壌伝染、種子伝染しないことが知られている。

## 8 防除対策

- 1) 媒介昆虫であるタバココナジラミの施設内への侵入を防止するとともに、施設に侵入した個体を薬剤で防除する。特に、育苗期間から生育初期の感染は経済的な被害につながるため、この時期の対策を重視する。
- 2) 発病した株は伝染源となる。直ちに抜き取りほ場外に持ち出して埋没処分するかビニール袋に入れて完全に枯れるまで密閉処理する。
- 3) 黄色粘着トラップを施設内に設置して媒介昆虫の早期発見に努める。
- 4) 発生地域で育成した苗は、ウイルスに感染している可能性がある。未発生地域ではウイルスの侵入を防止するため、発生地域から苗を購入する場合は、ウイルス対策を実施している施設で育苗した苗を購入するなど、十分注意する。
- 5) ほ場周辺やほ場内の雑草は媒介昆虫の発生源となるので除草する。
- 6) 施設栽培では、栽培終了時にハウスを密閉処理し、媒介昆虫が施設外に飛び出さないようにする。
- 7) 未発生地域で疑わしい症状が発生した場合は、最寄りの振興局の農業普及指導課や病害虫防除所に連絡する。